

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年12月19日

【評価実施概要】

事業所番号	3470206156		
法人名	有限会社 谷浦産業		
事業所名	グループホーム くつろぎ		
所在地 (電話番号)	広島市佐伯区利松一丁目26-13 (電話)082-927-5557		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成21年12月18日	評価確定日	平成21年12月24日

【情報提供票より】(H21年12月11日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	4 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 8,0 人

(2)建物概要

建物形態	併設	改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4 階建ての	3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000~53,000(円)	その他の経費(月額)	光熱 15,000 円
敷金	有(150,000 円) 但し、修繕費など減額残を返金		
保証金の有無 (入居一時金含む)		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり	1200 円	

(4)利用者の概要(12月11日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	名		
年齢	平均 81.9 歳	最低	69 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	生協さえき病院 さくら歯科クリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

マンション改造型、1ユニットでこじんまり、家庭的な運営がなされている。「あいさつ、笑顔、真心、気配り、目配り」を理念に、押し付けのない、自然な生活が重視されている。利用者一人ひとりのペース、思いや意向を大切に、職員都合に流されぬよう、管理者は日常ルーティン業務からはずれ、利用者ペースに合わせ易い対応体制がとられている。行事やレクリエーションも全体行動を無理強いせず、一人ひとりの時間も大切にされている。明るく、暖かい居間で、利用者は自然に集い、自然に歌が出、ゲームが始まる。郊外の静かな住宅地の中、自然な普通の生活が目指されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回指摘の改善課題は①運営推進会議の内容②職員の離職③職員の育成④介護計画の見直し⑤日々のその人らしいペース⑥食事・水分摂取量の把握・記録であった。①⑤⑥は改善されたが、他の改善は進んでいない。基本的で、難しい課題ではあるが、前向きで意欲的な改善取り組みを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム運営見直しの機会ととらえ、前向きな改善取り組みがなされているが、順調に進んでいるとは言えない。今回の自己評価は管理者によってまとめられたが、次回実施に当たっては、可能な限り全職員を巻き込み、みんなで検討してまとめ、みんなで改善に取り組まれるよう期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ほぼ2ヶ月に1回開催されている。メンバーは、町内会会長、老人会会長、民生委員、地域包括センター職員、ご家族代表などで、ホームの状況報告の他、災害時の避難体制づくりなどが話しあわれ、サービス向上に活かす努力がなされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族への報告は面会時や定期便で詳しく伝えている。また、体調の変化、物品の購入のお伺い、職員の異動などは電話で個別に連絡し、経過を記録に残している。苦情等は窓口を明記すると共に、ご意見箱も設置している。また運営推進会議でも、利用者や家族から遠慮なく意見や要望が出せるようにしている。苦情があった場合は、検討し、迅速に対応している。なお、重要事項説明書に、苦情窓口として、「第三者機関名・電話番号」も明記し、ご家族に徹底されることが望まれる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域行事や公民館行事、敬老会、生き生きサロンなどにはできるだけ参加するようにしている。またご近所とも挨拶や会話の機会を増やし交流を深める努力もしている。今後は、運営推進会議などを活用し、自治会とのかかわりを強めたり、ボランティアの協力なども得て、さらなる地域交流の深まりを期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念「あいさつ、笑顔、真心、気配り・目配り」を設定し、利用者が地域の中で、明るく自立した生活を送るためのケアが目指されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入り口の目立つところに掲示されている。全職員は理念を共有し、日常のケアは常に全項目を意識した取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事や公民館行事、敬老会、生き生きサロンなどにはできるだけ参加するようにしている。また、ご近所とも挨拶や会話の機会を増やし交流を深める努力もしており、地域への認知度は徐々に上がっている。	○	運営推進会議などを活用し、自治会との関わりを深め、ボランティアの協力などを得て、さらなる地域交流の深まりを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己・外部評価をホーム運営見直しの機会と前向きにとらえ改善に向けた取り組みがなされているが、成果は順調とは言えない。	○	次回自己評価実施に当たっては、全職員を巻き込み、みんなで検討してまとめ、みんなで改善に取り組まれることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ほぼ2ヶ月に1回開催されている。メンバーは町内会会長、老人会会長、民生委員、地域包括センタ職員、ご家族代表などで、ホームからの状況報告の他、災害時の避難体制づくりなどが話し合われ、サービス向上に活かす努力がなされている。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	実地指導を受けたり、疑問点をただすべく窓口を訪問するなど担当窓口との密接な関係づくりへの努力がなされている。なお、地域包括センターとは更に強い連携関係にある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や毎月の請求書送付時、日常の暮らしぶりや体調などの情報の他、広報誌も定期的に同封し郵送している。また、体調の変化、物品の購入のお伺い、職員の異動などは電話で個別に連絡し、経過を記録している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を明記すると共に、ご意見箱も設置している。また、運営推進会議でも、利用者やご家族から遠慮なく意見や要望が出せるようにしている。	○	重要事項説明書に、ホーム内相談窓口の他、申し立て可能な「第三者機関名・電話番号」(掲示板には掲示されている)を明記しご家族に徹底されることが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係づくりが重要だと考えており、離職を最小限に抑えるよう努力している。離職者が出た場合は、十分な引継ぎに努めたり、言葉がけに注意するなど、ベテランがフォローすることでダメージを防ぐ努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一般職員教育はOJTが中心で、社外研修などが本格的に受講できる体制にない。	○	職員レベルアップのため、「経験別教育計画」の設定と「受講できる体制」づくりを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括センターの呼びかけで、五日市・三和地区の同業者交流会をスタートさせた。今後、情報交換会や勉強会を積極的に行ない、サービス向上に結びつけてゆくことを期待する。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気に馴染めるよう、入居が決まったら、何回か面接を重ね、顔見知りの状態にしている。また、他の利用者や職員との会話を工夫したり、自分の時間を多く持ってもらったり、一人ひとり配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人を介護される一方の立場におかず、人生の先輩として接し、生活の知恵をさずかりながら、共に喜び共に過ごす関係づくりを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接時、できるだけ生活歴や意向、希望を把握すると共に、その後も、意向把握につとめている。その上で、できる限り、本人の思いに沿って過ごせるよう配慮している。また、一人ひとりの時間を大切に、生活の場を共有空間に限定しないよう心がけてもいる。		日常ケア活動を通じて把握した「利用者の思いや意向」を記録に残すよう望みたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の一人ひとりが、自分らしく、より良く暮らせるケアのあり方について、本人、ご家族、関係する職員で充分話し合い、アイデアを出し合って策定されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画期間に応じて、あるいは、健康状況などの急激な変化が生じた場合に見直しを行ない、必要な新たな計画を策定している。	○	課題の進捗を踏まえた定期的な見直し、「計画設定・課題フォロー・計画見直しのシステム」づくりを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	プライベートな外出、特別な通院のための送迎など、本人ご家族の要望については、その都度検討し、可能な限り柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望するかかりつけ医の受診支援は行なっている。但し、提携医の役割については、入居時充分説明し、同意を得た上で、内科的管理は往診主体で、他科受診は利用者とも調整しながら対応することになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化及び終末期介護対応の指針」を決め書類作成を終えた。随時、本人、ご家族、担当医と話し合いを進め、一人ひとりの方針を決め、全員で共有することになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライドを傷つけぬよう、言葉がけなど、職員相互で注意しあうよう努力している。日常の記録や個人情報は一括管理すると共に、文書による徹底もなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活のパターンが職員の都合優先にならぬよう、管理者をルーティン業務からはずし、外出やレクなど、可能なかぎり、利用者ペースに応えられる体制にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じ食事を一緒にとりながら、楽しい昼食となっており、適切な介助も行なわれている。また、一部の利用者には、食卓準備や片付けを手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯は決められているが、利用者の状況や希望があれば、いつでも対応するよう心がけている。長風呂を希望する人には、ゆっくりと対応支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力に合わせた、洗濯物のたたみ、食事準備など生活の中の役割を持ってもらっている。楽しみごとでは誕生会、ゲーム、歌、手芸など気晴らしの支援も行なっているが、無理強いはいしていない。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者ができるだけホームに閉じこもらぬよう、その日の体調、天気、本人の希望に配慮しながら、散歩、近隣外出などの支援を行なっている。		日常外出が更に増えるよう、一層の工夫を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害は理解されており、明らかに見守りが不足する場合を除き、日中の施錠は行なわれていない。常に目の届く位置で利用者を見守るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年、避難訓練は行なわれた。同一建物内マンション住人と共同防火管理協議会を設置すると共に、マニュアル「自衛消防の流れ」を作成し、利用者や職員に徹底すると共に、近隣にも配り、協力要請をした。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立と調理は職員が交代で行っている。栄養バランス・チェックや個人の状態や力に合わせた調理も行われている。食事摂取量は把握し記録されている。水分はティータイムなど摂取回数でチェックし必要な対応がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	マンションを改造したもので、決して広くはないが、オープンキッチン、居間兼食堂は程よい広さと明るさ、使い勝手もよく、利用者にとって、居心地よくなじみやすい共用空間となっている。ソファの配置、利用者の飾りつけ作品など、生活感や季節感をだす工夫もなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって使い慣れた家具、生活用品や観葉植物まで持ち込まれている。作品や写真などの飾りつけもなされ、利用者にとって居心地よく過ごせる場所となっている。		

NPOインタッチサービス広島

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念の基づく運営				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	事業所において独自の理念を定め、施設入口掲示コーナーに掲示している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	全職員が理念を共有し、サービスを提供する上での前提項目として日々の業務にあたっている。		。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	地域全体の行事には積極的に参加し、交流を深めることで、家族や地域から一層深い理解が得られるよう取り組んでいる。		
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域住民や同建物の住人と会えば、あいさつを交わす程度で、気軽に立ち寄ってもらえるような程の交流には至っていない。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地区の行事には積極的に参加するよう心がけており、入居者・職員とも施設の一員として近隣に認知されている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域との交流は受動的であり、地域高齢者等の暮らしに役立つことへの積極的な取り組みは行われていない。	○	運営推進会議などの機会を利用し、施設での理念や活動を発信し、積極的に地域と関わることができる方法を模索していきたい
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	定期的な自己評価および外部評価を参考に、業務改善の優先順位決定に活用している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に運営推進会議は開催し、地域の関係者や地域包括支援センターの職員を中心に意見を交換している。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	実地指導などの他に、電話や窓口を直接訪ねるなどして不明な点を解消し、より適正に運営できるよう努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	シルバーサービス振興会主催の研修などを通じて、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けている。地域権利擁護事業については、現在一名の入居者が利用している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	行政から配布される資料を通じて、高齢者虐待についての理解を深め、事業所内で虐待が行われることの無いよう防止に努めている。		
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書原本をもって説明し、十分な説明・同意を得たうえで締結を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	施設内に苦情箱を設置し、また、運営推進会議においても施設側の報告のみに留まることの無いよう、利用者や家族が自由に意見を述べる事が出来るよう図っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	利用料の請求・領収書に、金銭出納帳とその根拠となる領収書の複写を添付のうえ発送している。また、入居者の容態変化や物品購入の伺い、職員の異動についても電話等で個別に報告を行い、その経過を記録している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設内に苦情箱を設置し、また、運営推進会議においても施設側の報告のみに留まることの無いよう、利用者や家族が自由に意見を述べる事が出来るよう図っている		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	不定期ではあるが、開催の必要性が認められた場合に職員ミーティングを開催し、議事を運営に反映させている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	現状では、既定のシフトで対応できているが、例えば勤務者数が少ない夜間帯の徘徊や緊急時対応などにおいても柔軟な対応が図れるよう、緊急連絡網を利用した連絡体制を整備し、有事にはより多くの助力が得られるよう努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	前年と比して、離職率の低下は見られる。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	随時届く研修案内等の事業所内回覧を積極的に行い、シフトにおいても便宜を図る体制を整えてはいるが実際の受講には至っておらず、事業所内で働きながらトレーニングしていくことが中心となっている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者とのネットワーク作りは積極的に行うようにしており、サービスの質を向上すべく随時の情報交換を通じて交流を図っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	特にストレス軽減を図っての取組みは行われていないが、極力残業の無いよう、お互いが協力し合っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	各職員の勤務状況を把握のうえ、意見聴取や提案を極力取り入れ、向上心を持って業務にあたることができるよう努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居前の事前相談などを利用し、本人の思いを傾聴し、具現化するよう心がけている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前の事前相談などを利用し、家族等の思いの聞き取りを行うよう心がけている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	自社事業だけのサービスにとらわれず、必要に応じて他サービスの利用を含めた、広い対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居の際は、まず雰囲気になら馴染んでいただけるよう、他入居者や職員との会話を工夫したり、自分の時間を持つていただけるような援助を心がけている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	特に生活歴などを参考に、本人から学んだり、生活の中で手をお借りするなどして、共に過ごすことができるよう心がけている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	個別の状況報告などを利用し、思いの共有を図り、時には支援の依頼をするなどし、一緒に本人を支えていくことができるよう努めている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	事前訪問や適宜の開き取りにより、本人と家族との関係把握に努め、場合によっては関係の改善が図れるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの関係が途切れることの無いよう、面会簿を利用して面会者と本人との関係を把握し、関係継続への支援を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係については、職員同士が理解し、その情報の共有に努め、一人ひとりが孤立することの無いよう、支え合いに努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去した入居者やその家族についても、会えば挨拶を交わすといった、通常の関わりは続けている。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント </div>				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人が過ごしたいように過ごせるよう、生活空間を共有スペース中心に限ることの無いよう心がけている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面接を中心に、本人の生活歴の把握に努めている。必要に応じ、サービス利用中でも本人や家族に対して生活歴等の問い合わせを行い、本人についてより深い把握が出来るよう努めている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	諸記録を通して、職員間での情報共有を適宜行い、利用者の現状について総合的に判断・把握するように努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人がより良く暮らせるための計画を、家族や関係者と話し合い、作成している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	計画期間に応じて、あるいは状態の急激な変化があった場合には見直しを行い、必要に応じ新たな計画を作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子については事業者作成の様式に記録を行い、職員間の情報共有に活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人・家族の要望については、可能な限り柔軟に対応できるよう、要望の都度検討・対応を行っている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域での行事参加、徘徊時の警察との連携など、本人の意向や必要性に応じた協力のもと、支援を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他のサービス利用についての希望は現時点では確認されていない。	○	今後、入居者の意向や必要性が確認できれば、事業所や地域の枠にとらわれず、利用へ向けた適切な支援を行いたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を通じて定期的な報告を行っており、報告だけに留まらず、積極的に意見や方策を求めていくよう心がけている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	契約時に、提携医療機関の役割について説明。同意を得たうえで内科的管理は往診を主に行っている。他科受診については必要性や利用者・家族の意向を踏まえ、事業者・利用者双方で調整しながら対応している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	入居時に認知症の診断を行った医師とは、入居後も連携を図っており、必要に応じて事業所からの情報提供を行い、診断・治療の可否や意見を伺っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職への相談は、従前より行われていた往診時に加えて、新たに訪問看護ステーションとの提携を行い、より気軽に相談できる体制を整えた。入居者の体調について判断に迷う際などは、ステーションに連絡し相談している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院中であっても病院任せにせず、数日おきに入院先を訪ね、本人との面会や医師・看護師との情報交換に努め、その結果を職員に申し送るなどして連携に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	終末期介護の方針については作成しているが、本人や家族と話し合いが済んでいるのは一部であり、全ての関係者が共有するまでは至っていない。	○	今後も方針の共有に向けた取り組みを続けていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	新規入居者の受け入れ時、現に入居されている方のケアの方針などについて、かかりつけ医等を交えて、施設として出来ること出来ないことの見極めを慎重に行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	特に他事業所に移られる場合には、事前の情報提供は積極的に行い、本人のダメージが最小限になるよう努めている。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1 その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p> </div>				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	言葉かけについては、職員互いが注意し合えるように努めている。また、個人情報の取り扱いについては、職員に対して文書により説明を行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	声かけの際には、介護者の思いが優先されることの無いよう、本人の意思を確認しながら行っている。納得されない場合でも、時間や対応者を変えてみるといった対応を行い、納得していただけるよう努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日常生活パターンは、職員の勤務シフトに沿ったものになっており、依然として要改善事項であるが、外出の希望などについては対応できるようにしており、希望に沿った過ごし方が多少可能になっている。	○	劇的な変化は困難であるが、人員や設備、職員の意識改革を図り、入居者が本来の自分の時間として生活できるよう取り組んでいきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理美容関係は、出張サービスによる施設内対応によるが、利用者側からの店舗指定等の希望も得られていない。個別の美容院対応等、希望があった場合には対応できる体制は整えている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備の際は、好みの献立を聞いてみたり、自発的にテーブルを拭いてくださる姿が見られる。片づけの際も食器やテーブルを拭いてくださっている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居時に飲酒・喫煙の習慣を持っておられた方も、徐々に習慣が薄れており、日常的な飲酒や喫煙は行われていない。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	本人の排泄状況にあったオムツ類の使用を心がけており、シフトに準じた定時の排泄介助ではなく、本人の生活パターンに合わせた排泄支援を行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの希望があれば随時対応できるよう心がけている。現状において、曜日や時間帯についての変更希望等は、利用者およびその家族からもいただいていない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	休息や睡眠については、基本的に本人のサイクルに合わせてるようにしているが、顕著な昼夜逆転などについては是正できるよう働きかけを行っていてもいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人の希望に合わせた余暇活動が出来るように支援をおこなっている。当施設では手芸系統の希望・支援が多い。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	殆どの方について、金銭は預かり管理となっているが、受診費の支払いなど場面によっては、本人が財布を所持して支払いを行えるよう援助している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	時期的な問題があり、現在は戸外に出る頻度は少ない。気候が穏やかになるのを待ち、近隣その他への外出支援を行なう。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	家族からの申し出が中心ではあるが、外出・外泊には積極的に支援を行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙や電話のやりとりは原則自由となっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。			
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	原則、身体拘束は禁止しており、それに基づいたケアを提供している。やむを得ず拘束に至った場合でも、家族に対して事前に内容の説明を行い、同意を得ている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	明らかに見守りが不足する場合を除き、日中の施錠は行っていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居室内で自分の時間を楽しんでおられる方を除いて、利用者の傍には必ず見守り対応の職員がついている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	不穏などの際に、自傷や他害のおそれの確認された場合を除き、一律に危険物としてとらえることはせず、状態に応じた危険防止策を取れるように努めている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個々の状態に応じて留意すべき点などを共有し、事故防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	定期的な訓練は行われていない。	○	開催予定のミーティング等の場を利用して、定期的に訓練を行えるよう図っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	事業所はマンションに所在しており、住人と共同防火管理協議会を設置している。また、施設内にも緩降機を設置しており、地域の協力だけでなく施設単独でも避難援助ができるように考慮されている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入居したことで抑圧感を感じる事の無いよう、都度家族や本人の意見を聞けるよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルサインや本人の様子をもとに、異常の早期発見に努めている。必要に応じ、提携医療機関へ指示を仰ぐといった対応をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬内容についての情報は事務所内に設置。職員がいつでも確認できるようにされており、内容や副作用、症状の変化に気を配ることができるようになっている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	運動と、下剤による排便コントロールを行っている。対応については、提携医療機関の医師と随時の報告・相談のうえ行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアは毎食後実施されている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立については、総合的に栄養を取ることが出来るよう常に留意して作成している。また、水分についても頻繁にティータイムを設けることで、より多くの水分摂取の機会を得られるよう図っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防や対応指針については、行政からの資料を流用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具の衛生管理については、アルコールと次亜塩素酸による消毒を併用している。また、食事関係の業務にあたる際の手指消毒を徹底している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	大きな看板や、マンション住人も使用しているエレベータなど、建物周囲に開放された雰囲気を出すように努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ソファを設置したり、入居者が作成した季節に応じた作品を展示するなどして、生活感や季節感を出すような工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間では、多人数で過ごせるような空間作りに重点が置かれており、独りになれるスペースは居室が中心である。	○	共有空間が狭く、新たに独りで過ごせるような空間を設置することは困難だが、居室で過ごす時間を尊重し、共有空間でなくても自由に独りで過ごすことが出来るよう、配慮を続けていきたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に本人所有であったものは利用していきたくて考えており、特に仏壇などの宗教的なものを中心に実際に持ち込まれているが、大きな家具類は既に施設側で用意されており、持ち込み物品は小さなものが多い。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	共有スペースには換気扇が設置されている。また、室温計の数値を参考に、居室と共有部分に大きな気温差が無いよう、こまめな温度調節が行われている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレの手すりや、個別に用意された福祉用具を活かして、安全かつ自立した生活が送れるように工夫を行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	声かけなどを中心に、個々のわかる力に応じた対応に努めており、混乱や失敗が最小限に留まるよう配慮している。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	中庭に畑を作った。数種類の野菜を植えており、収穫をともに楽しむことを目指している。ベランダは景色を眺める程度にしか使われていない。		

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="radio"/> ① <input type="radio"/> ② <input type="radio"/> ③ <input type="radio"/> ④	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ① <input type="radio"/> ② <input checked="" type="radio"/> ③ <input type="radio"/> ④	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ① <input checked="" type="radio"/> ② <input type="radio"/> ③ <input type="radio"/> ④	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	<input type="radio"/> ① <input type="radio"/> ② <input checked="" type="radio"/> ③ <input type="radio"/> ④	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① <input checked="" type="radio"/> ② <input type="radio"/> ③ <input type="radio"/> ④	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ① <input type="radio"/> ② <input type="radio"/> ③ <input type="radio"/> ④	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいの 家族等の1/3くらいの ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目